

134 昭和時代 高度経済成長の展開 (1955-1973)

“高度経済成長の土台”

- ① 朝鮮特需 (1950-53)
- ② 農地改革 の成果(農民の所得拡大)
- ③ 単一為替レート (1949)

高度経済成長の展開

1955-57

< 神武景気 > (鳩山内閣)

- ・前年のMSA協定(経済援助受けた)
- ・1955 春闘 方式の賃上げ開始。
- ・1956 もはや戦後ではない (『経済白書』)

戦後十年。国民の衣食住への需要が満たされてきました。空襲で焼け野原になった都市も、家が建ちました。だから、これからはもう戦後じゃないんだから、放っておいては経済は成長しませんという意味です。



鳩山一郎。
再軍備・改憲論者

1959-61

< 岩戸景気 > (岸・池田内閣)

- ・技術革新、設備投資。投資が投資を呼ぶ
- ・三種の神器 爆発的普及。皇太子御成婚。
[皇太子さま ご結婚 | NHK放送史\(動画・記事\)](#)

1960 池田内閣 所得倍增計画 発表

国民所得を10年以内に2倍にすると公約(7年で達成)
[国民所得倍增計画 池田総理の記者会見\(amanaimages.com\)](#)

岸信介

1962 LT貿易 開始 (池田内閣)

池田内閣は、国交のない中華人民共和国との貿易拡大を目指して、準政府間貿易の取り決めを結びました。LTは交渉した廖承志(りょうしょうし)と高橋達之助の頭文字です。

1963-64

< オリンピック景気 > (池田内閣)

- ・建設投資。東海道新幹線開通
- 名神高速道路、首都高速道路も開通。

1966-70

< いざなぎ景気 > (佐藤内閣)

- ・1965 ベトナム特需 (米国がベトナム戦争に介入)
- ・輸出超過 の定着
- ・新三種の神器(3C) [カラーテレビ本格化 | NHK for School](#)
- ・1968 GNPが資本主義国で第2位
西ドイツを抜いて、アメリカに次ぐ2位になりました。



池田勇人。
軽武装の“吉田路線”の後継者です



佐藤栄作

高度経済成長の影響

① 産業構造の高度化

- ・重化学工業、第三次産業の比率が高まりました。
- ・エネルギー革命(石炭→石油)
1960 三井三池炭鉱争議(池田内閣)→労働者側敗北
- ・農業所得は停滞。兼業農家が增大。
- ・1961 農業基本法 公布。しかし専業農家の育成失敗。

② 自由貿易体制への移行

- ・1964 GATT11条国 に移行。
貿易赤字を理由に輸入制限ができない国になった。
世界は一層安心して日本と貿易できるようになった。
- ・1964 IMF8条国 に移行。
為替制限ができない国になった。
- ・1964 OECD に加盟。
資本の自由化を義務付けられる国になりました。
日本企業を外国企業が買収可能になります。

③ 新しい企業社会

- 生産性向上運動 (経営者の側が行う)
→ “日本的経営” 経営者の側が
日本生産性本部を設置
(終身雇用・年功賃金・労使協調)
- ・総評に代わり労使協調型の 同盟 設立
- ・六大企業集団 (銀行を中心) 系列取引

④ 大衆消費社会の形成 “消費は美德”

1972 スーパーマーケット>百貨店売上

⑤ 公害問題

- 1967 公害対策基本法(国と自治体に責任)
- 1970 環境庁 新設
- 公害対策、福祉予算の増大→行財政改革へ